

「県内市町村史に掲載された中国での戦争
体験記を読む～沖縄出身兵100人の証言」

著者:「南京・沖縄を結ぶ会」沖本裕司

松本 朗

この本は「南京と沖縄を結ぶ会」という市民団体が沖縄県の各市町村の歴史を記録した本や資料から、戦争の記録や元兵士の証言を集め、編集したものに100ページにも及ぶ解説をつけたものです。制作に携わった沖本裕司さんは同会の事務局長で沖縄の平和ガイドも務めています。

本を制作するきっかけになったのは中国の南京市で日本語通訳ガイドをしている戴国偉(タイ・グオウェイ)さんが2019年10月に沖縄を訪問したことでした。戴さんは平和の礎をはじめ戦跡と基地をめぐり、辺野古ゲート前の座り込みをたたかう人々と交流しました。そして宜野湾セミナーハウスで「一南京市民が見る“南京事件”」と題して講演会を開き、南京事件について詳しく語りました。会場に集まった30人近くの市民を前にして、どうして“南京事件”が起こったのか、その背景、経過、犠牲の実態などについて説明をおこないました。

その後、戴さんの来沖とお話を準備した名桜大学教員の稲垣絹代さんと平和ガイドの沖本さんが中心になって「南京と沖縄を結ぶ会」を結成しました。

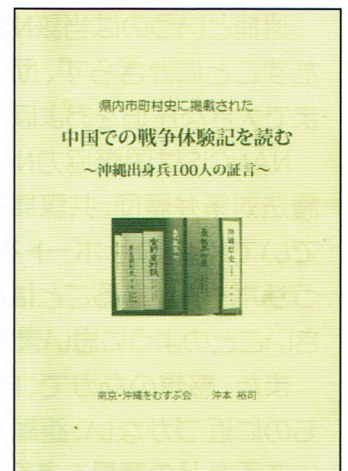
「結ぶ会」は2020年、3月に沖縄県内外から「南京訪問団」を結成し沖縄と南京をつなぐツアーを行う企画をたてていました。しかしコロナ感染拡大のためにその企画は中止となりました。そこで沖本さんは、空いた時間を使ってこの本の作製に集中したのだといえます。

本で沖本さんは「南京虐殺と中国侵略を日本の対外膨張の歴史の中で改めてとらえてみることにした」「さらに、沖縄がどういう形で、日本軍の中国侵略、南京大虐殺にかかわっていたのかという関心を持って、各市町村史に掲載された戦争体験記録に目を通すと、沖縄県民の中国での戦争体験が実に多く記録されていた」「そこで各市町村史に掲載された県民の中国での戦争体験記録を一つにまとめて読みやすくする便宜を図ると共に、日本の対外侵略の歴史の中に日中戦争を位置づけコメントを加えて編集したものが今回出来上がったこの冊子である」とこの本を制作した理由と内容を述べています。

1937年の「南京大虐殺」についての証言では「南京が陥落したのは確か12月13日頃だったと思うが、雪が降っていた。南京に到着して城外に露営してしばらく休養したが、戦場の常とは言え死体のあまりの多さには驚いた。道の両側に死体を積み上げて、人の通る中央部だけが空いている状況であった。」

「また一週間程経ってから南京の船着場である下関(シャークアン)港に糧秣受領に行き、又悲惨な光景を見た。中支でも12月までは乾期で雨量は少なく、雨期と乾期では揚子江の水面の高さは四・五メートルの差があるとの事でした。当時は乾期のため、水面は低く下関船着場の岸壁から水面に放り込まれた死体の山は、岸壁のコンクリートの高さまで積もっており、波止場の広場は血で赤黒く染まって異臭を放っていた。多分追い詰められて逃げ場を失った敵兵は、ここで虐殺されたのであろうとの話であった。一か所にこれだけの死体を見たのは、おそらく南京の大虐殺の現場ではなかったかと思う」『東風平町史』 知念富一(「私の日支事変従軍記」)。と、述べています。

この加害者としての証言集が沖縄から沖縄県外のすべて(日本)そして中国—アジアを平和と連帯で結ぶ大きな力になると思います。みなさんぜひ、ご購入ください。



沖本裕司・編著『中国での戦争体験記を読む～沖縄出身兵 100 人の証言～』発行「南京・沖縄を結ぶ会」2020年6月23日、A4判 262ページ 1000円+郵送料。

<購入方法>下記の電話・FAX・メールのいずれかで、お申し込みください。

頒価 1000円 送料1冊370円
(レターパック、2冊まで370円)

連絡・申し込み先 沖本裕司

Tel:090-1948-6673 FAX:098-998-7629

メール okihiro@me.au-hikari.ne.jp

郵送した商品に、請求書・振込先を添付しますので、ご購入後にお支払いください。